

		タジキスタン		
生物多様性条約	○	名古屋議定書	○	ITPGRFA
法制度の状況				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 現状では遺伝資源アクセス法規制等は存在せず、現在ドラフト作成中。2017年中にドラフトを作成し、その後ステークホルダーミーティングを実施する予定。→要確認 ➤ 現状、遺伝資源の持ち出しについては、Cultivate Agriculture Law、Forest Law、Plants Conservation Lawが関連している。 				
入手方法				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 植物遺伝資源については、ロシアバビロフ研との関係が深く（もともとはバビロフ研のブランチ）、バビロフ研を通して入手できる可能性は高い。実際に多くの国と遺伝資源に関する共同研究を行っている。 				
対象とする遺伝資源				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 未定 				
取組経緯 ※他事業と連携して交渉しているため【 】にて本事業と他事業を区別している				
H29	H29.10 タジキスタン訪問【本事業】			
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 法制度に関する情報収集。 			
これまでの成果				
■ABSに関連する法制度と運用に関する情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 現地ヒアリング調査により、タジキスタンにおけるABS法制度の現状について情報を得た。 ■カウンターパートに関する情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 現地ヒアリング調査により、共同研究を行う際のカウンターパートについて情報収集した。 				
今後の課題				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ わが国の遺伝資源利用者に広く情報提供し、探索等の希望について把握する必要がある。 				
カウンターパートに関する所見				
タジク農業科学院 国立遺伝資源センター (National Republican Center for Genetic Resources, Tajik Academy of the Agricultural Sciences (TAAS)) <ul style="list-style-type: none"> ➤ 大統領令で設置された政府直営の研究機関であり、農業省関連の機関ではない。 ➤ 植物遺伝資源センターはバビロフ研と良好な関係。保存点数 11,000 点。遺伝資源の保存についてカバーできていないエリアがある。 ➤ オランダの種苗企業と覚書を取り交わした上で研究目的の連携あり。 ➤ 日本の種子保管法等、若手の研究員が学べる機会が欲しいとのこと。 植物学・植物生理学・遺伝学研究所 (Institute of Botany, Plant Physiology and Genetics) <ul style="list-style-type: none"> ➤ 米国、イラン、オランダ、イギリス、オーストラリア等と連携、良好な関係を築いている。 				
留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 現時点（平成 30 年 3 月）では特になし。 				